

【資料1】

軽井沢オープンドアスクール(仮称)設置準備会議委員名簿

敬称略

	氏名	所属・役職	備考	出欠
1	荒井 英治郎	信州大学教職支援センター准教授	学識経験者 及び 支援者	座長
2	本田 秀夫	信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部部長		欠席
3	三和 秀平	信州大学学術研究院教育学系准教授		
4	木村 泰子	大阪市立大空小学校初代校長		
5	西郷 孝彦	世田谷区立桜丘中学校元校長		
6	福本 理恵	SPACE CEO		
7	飯澤 幸世	日本財団公益事業部子ども支援チーム		
8	今村 久美	認定NPO法人カタリバ代表理事		オンライン
9	西野 博之	認定NPO法人フリースペースたまりば理事長		
10	岡田 敏之	基礎教育保障学会会長 京都市立洛友中学(併設校)元学校長		
11	小池 徳男	義務教育課長	県教育委員会	代理者出席 (オンライン)
12	白井 学	学びの改革支援課長		代理者出席 (オンライン)
13	召田 誠	心の支援課長		代理者出席 (オンライン)
14	本城 慎之介	学校法人軽井沢風越学園理事長	町関係者	
15	上原 浩子	長野県軽井沢高等学校長		
16	山崎 伸一	軽井沢町立軽井沢中学校長		
17	久保 貴史	軽井沢町立軽井沢西部小学校長		
18	諸星 ひとみ	NPO法人軽井沢教育ネットワークこんぺいとうの会代表		
19	岩崎 ひとみ	NPO法人国際多文化教育推進協会理事長		

(事務局)

宮本 隆	軽井沢町教育委員会教育長	
内堀 繁利	軽井沢町教育委員会教育推進アドバイザー	
岩井 和成	軽井沢町教育委員会こども教育課長	
金井 章宏	軽井沢町教育委員会こども教育課課長補佐兼学校教育係長	
金井 拓也	軽井沢町教育委員会こども教育課軽井沢高校・教育魅力化推進係長	
小林 真理	軽井沢町教育委員会こども教育課スクールサポーター	
堀本 淳子	軽井沢町教育委員会こども教育課教育支援センター職員	

資料 2

軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議要綱

（設置）

第1条 軽井沢町は、「第6次軽井沢町長期振興計画」及び「軽井沢町教育大綱」に基づき、「軽井沢こぶし教育」基本方針の理念を踏まえ、誰もが住みやすく、誰ひとり取り残されない、ワクワクして人が集まり多様な価値を認め合うまちづくりを推進している。その一つとして、多様な学びを実現する新たな学校の創出に向け、必要な事項について検討及び協議をする軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議（以下「準備会議」という。）を設置する。

（所掌事務）

第2条 準備会議は、軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置に関する事項について検討及び協議し、その旨を取りまとめ町長に報告書として提出するものとする。

（組織）

第3条 準備会議は、委員20名以内で組織する。

2 準備会議の委員は、次に掲げる者のうちから町長が依頼する。

- (1) 学識経験者及び支援者
- (2) 長野県教育委員会
- (3) 町関係者
- (4) 前各号に掲げるもののほか、町長が必要と認める者

（座長）

第4条 準備会議に座長を置き、座長は委員のうちより軽井沢町教育長が指名する。

2 座長は、会務を総理する。

3 座長に事故があるときは、あらかじめ座長が指名した委員がその職を代理する。

(任期)

第5条 準備会議の委員の任期は、軽井沢オープンドアスクール（仮称）の開校日までとする。

2 委員に欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(報酬等)

第6条 委員の報酬及び費用弁償については、軽井沢町特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例（昭和35年4月1日条例第6号）により支給するものとする。また、旅費については、軽井沢町職員の旅費に関する条例（昭和32年10月10日条例第40号）により支給するものとする。

(会議等)

第7条 準備会議は座長が招集し、その会議を総括する。

2 準備会議の委員は、対面式若しくはオンラインでの参加とする。

3 座長が必要と認めるときは、委員以外の関係者の出席を求め意見を聴くことができる。

4 準備会議は、原則公開とする。ただし、公開することが会議の運営に支障があると座長が判断したときは、会議に諮って非公開とすることができる。

(事務局)

第8条 準備会議の事務局を、軽井沢町教育委員会こども教育課軽井沢高校・教育魅力化推進係に置く。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、準備会議の組織及び運営に関し、必要な事項は、町長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、令和7年2月6日から施行する。

(失効)

2 この要綱は、軽井沢オープンドアスクール（仮称）の開校日をもって、その効力を失う。

資料 3

令和 7 年（2025 年）3 月 7 日

第 1 回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議 資料

軽井沢町の教育環境について

1 軽井沢町内の教育・保育等施設（クラス数・定員数は令和 6 年度）

(1) 小学校・中学校（クラス数） ①～⑦は資料地図の番号及び 7 校連携校

町立 ・東部小学校 (6) ① ・中部小学校 (16) ② ・西部小学校 (12) ③
・軽井沢中学校 (12) ④

私立 ・軽井沢風越学園 (9) [小中一貫]⑤

(2) 高等学校（クラス数）

県立 ・長野県軽井沢高等学校 (6) ⑥

私立 ・UWC ISAK JAPAN (3) [全寮制国際高等学校]⑦

(3) 保育園・幼稚園他（定員数）

町立 ・東保育園 (100) ・南保育園 (90) ・西保育園 (130) ・中保育園 (130)

私立 ・おおきくなあれ保育園かるいざわ (40)

・ポピンズナーサリースクール軽井沢風越 (70)

・聖パウロ幼稚園 (75) ・軽井沢幼稚園 (25) ・軽井沢風越幼稚園 (72)

他 ・森のようちえんぴっぴ (40)

・イートンハウスインターナショナルプリスクール (25)

(4) 児童館（町立 6 施設）

併設館 ・東地区児童館 ・中地区児童館 ・西地区児童館

（各小学校に併設・隣設、放課後子ども教室開設）

在来館 ・中軽井沢児童館 ・南地区児童館 ・長倉地区児童館

2 新たな教育・保育等施設の開設

平成 19 年（2007 年）森のようちえんぴっぴ

平成 26 年（2014 年）インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢 (ISAK : 現 UWC ISAK JAPAN)

令和 2 年（2020 年）軽井沢風越学園

令和 2 年（2020 年）おおきくなあれ保育園

令和 5 年（2024 年）ポピンズナーサリースクール軽井沢風越

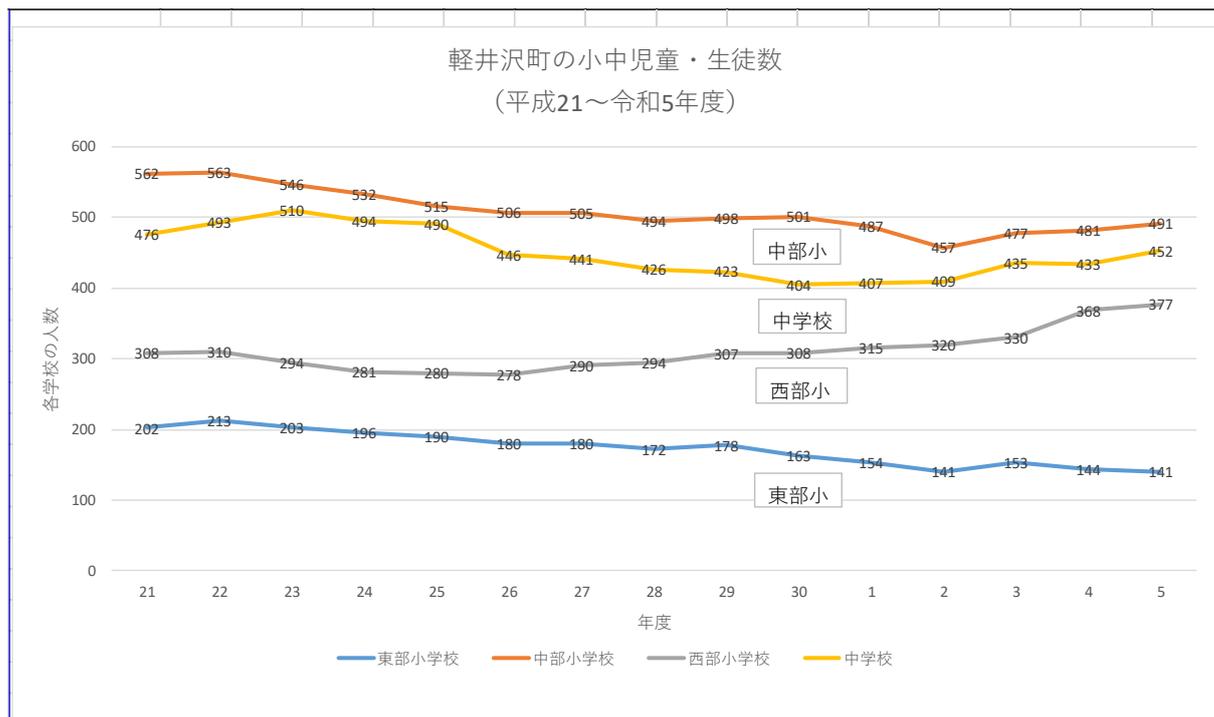
3 転入者の増加

軽井沢町は観光保養地のため、もともと移住者が多かったが、高速交通網の充実や町内外の新たな教育施設の開設はその動きを加速させた。また、令和 2 年からのコロナ禍がこの動きをさらに加速したと思われる。具体的に表 1 と図 1 に、町立の 3 小学校と 1 中学校の児童・生徒数を 15 年間示した。平成 24 年までは 3 小学校は全国の少子化と同様に減少していたが、西部小学校は平成 26 年からは一貫して増加しており、令和 5 年度には 377 人となり平成 26 年から 9 年間で 100 人増加している。さらに令和 2 年から東部小学校を除き、すべての学校で増加傾向となっている。

表 1

年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5
東部小学校	202	213	203	196	190	180	180	172	178	163	154	141	153	144	141
中部小学校	562	563	546	532	515	506	505	494	498	501	487	457	477	481	491
西部小学校	308	310	294	281	280	278	290	294	307	308	315	320	330	368	377
中学校	476	493	510	494	490	446	441	426	423	404	407	409	435	433	452
合計	1569	1601	1576	1527	1500	1436	1443	1414	1435	1406	1364	1329	1398	1430	1466

図 1



4 軽井沢町の特徴ある教育活動

(1) 7校連携協定

平成 26 年 ISAK (現在の UWC ISAK JAPAN) が開校、グローバル教育の観点から生徒さんとの交流をメインに連携協定を締結。町立小中学校 4 校・県立軽井沢高校・私立風越学園・私立 UWC ISAK JAPAN の 7 校。現在は当初の目的以外に交流事業や合同研修等実施。

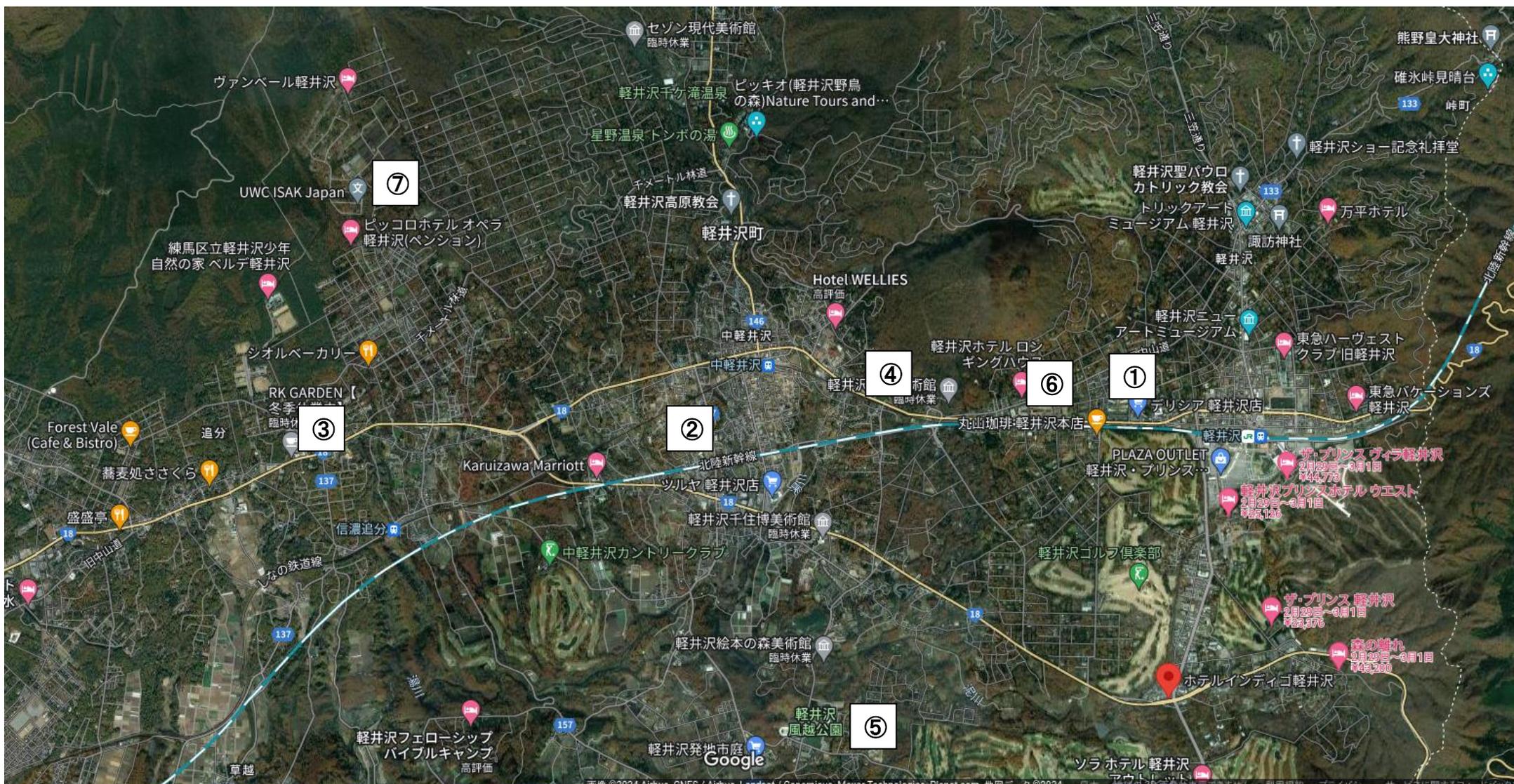
(2) 幼保小中高一貫独自プログラムについて (別紙参照)

軽井沢町の教育理念である「こぶし教育」を具体化するために「軽井沢学」「SS (スクールサポーター) 支援」「教育DX」の 3 つを柱とした一貫独自プログラム (案) を策定中。特に「軽井沢学」は中心的なプログラムであり、町の歴史や文化等を学ぶだけでなく、軽井沢の豊かな自然・人材等の豊富な教育資源を活用した学びであり、例えば演劇手法を取り入れた「表現コミュニケーション」、24 項目のテーマから軽井沢の「ヒト・モノ・コト」にじかに触れる「軽井沢ゼミ」、町内一流シェフ監修で地元食材を含めた食の楽しさや大切さを味わう「シェフ給食」等がある。

教育施設（連携 7 校）の位置図

令和 7 年（2025 年）3 月 7 日

第 1 回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議 資料



①東部小学校 ②中部小学校 ③西部小学校 ④軽井沢中学校 ⑤風越学園 ⑥軽井沢高校 ⑦UWC ISAK JAPAN

カリキュラム編成

(学習指導要領に基づく教育課程の概要)
保育園・幼稚園は別基準

町の教育一貫プログラムの位置づけの理解のため、またプログラム実施に際し学校等での教育内容に十分配慮する必要があるためにここに掲載した。

	各教科 (特別な教科 道徳 を含む)										特別活動	総合
	国語	地歴	公民	数学	理科	保健	芸術	外国語	家庭	情報		
高等学校(単位制)	現代の国語文化 言語文化	歴史総合 地理総合	公民 共	数学 I	地生化学 基礎基礎	保健 体育	美術 音楽	英語 コミュニケーション	家庭 基礎	情報 I	必修科目	総合的な探究の時間 未来・未来探究・デュアル
中学校	国語 現代文 古典	社会 歴史 地理	公民 政治経済	数学 数Ⅰ 数Ⅱ	理科 地生化学 物理	保健 体育	芸術 音楽 美術	外国語 英語	家庭 生活	道徳	学級活動・生徒会活動・学校行事 児童会活動・クラブ活動 児童会活動・学校行事	総合的な学習の時間
小学校	国語 読書 漢字	社会 歴史 地理	公民 生活	算数 数 割合	理科 物質 地球	体育 身体 運動	音楽 歌 楽器	外国語 英語	家庭 生活	道徳	学級活動・クラブ活動 児童会活動・学校行事	総合的な学習の時間
幼稚園	国語 言葉	社会 生活	公民 生活	算数 数 量	理科 自然 現象	体育 身体 運動	音楽 歌 楽器	外国語 英語	家庭 生活	道徳	学級活動・クラブ活動 児童会活動・学校行事	総合的な学習の時間

軽井沢「こぶし教育」を具体化する 教育一貫独自プログラム

このパンフレットは「こぶし教育」と「教育一貫独自プログラム(概念図)」を示してあります。

こころ豊かに

「人」「物」「環境」への思いやりを備えた人の育成に努めます。

ぶぶんかを育て

国際親善文化観光都市にふさわしい人の育成に努めます。

しぜんを愛する

軽井沢の自然を愛し、自然環境を守り続ける人の育成に努めます。



「こぶし」の花
(軽井沢植物園)



こぶし教育の趣旨

軽井沢町の町木「こぶし」は、雪解けとともに白い花を梢いっぱい咲かせます。純白のその花の色から純真な心を想わせます。教育は無から、白紙の状態から始まります。厳しい冬の寒さに耐え、早春に純白の花を咲かせる「こぶし」の姿は、社会に貢献できる人材として育とうとする子どもたちの姿に重なります。

また、子どもは、人とのつながりや地域や環境とのつながりによって成長していきます。その礎は、家庭や地域の教育力が大きな役割を果たします。子どもが成長する過程でかわりを持つ地域や学校は、家庭と足並みをそろえ、互いに「こぶし教育」の趣旨を共有しながら子どもの教育・支援にあたるのが大切です。そのために、一人で解決出来ない子育てへの不安や迷い、障がいを持つ子どもへの理解や共生に対する相談・支援体制を整え、特別に配慮の必要な子どもの支援も町の責務です。

「こぶし」の花言葉は、「信頼」と「友情」です。子どもが握ったこぶしを連想させるとしてつけられたとも言われています。子どもはそれぞれ個性があり、特性があります。やがては春一番に花開かせるこぶしのように未来を担う「軽井沢っ子」を育てるため、内に秘められた心を地域全体で支援して成長させていくことが私たちに課せられた課題です。

軽井沢が進める教育の姿勢を、厳しい環境に耐えて花開かせるこぶしに例え、「こぶし教育」としました。町ぐるみで「こぶし教育」を推進していきたいと考えます。

平成 29 年 9 月改訂 軽井沢町教育委員会

こぶし教育 七つの基本方針

- (1) 「こぶし教育」深化・発展を図り、グローバル化が進む中、地域を愛する将来の軽井沢町の担い手となる人材を育成します。
- (2) 町内幼保小中高が連携し、地域の特徴を生かした教育活動を行い、系統的に「軽井沢学」を学び「人や物に対する思いやりや、自然・文化・営み」を大切にすることを育みます。
- (3) 「児童・生徒が共同で学ぶ」「21世紀型学力の育成※1」に向け、教師の資質や指導力の向上を図り、充実した学校生活を送れるよう学びの環境を整え、学力、体力の向上に努めます。
- (4) 学校と家庭・地域がともに協力して、いじめ、不登校の解決に努め、安心・安全な学校づくりを推進します。
- (5) 幼保小、小中、中高、それぞれ連携する中で交流を一層促進し、一貫した「こぶし教育」の推進に努めます。
- (6) 学校と町の文化施設を含む軽井沢の自然や環境を活かした教育への取組や、その他の軽井沢の資源を活用した教育を推進します。
- (7) 軽井沢版「信州型コミュニティスクール※2」を推進し、地域と学校の連携に努め、開かれた学校づくりを目指します。

※1 単に知識・技能を身につけることだけでなく、自ら知を創造する力、思考力や判断力、コミュニケーション能力などを育む力
※2 開かれた学校づくりのために、地域の方(力)に学校教育に参画してもらおう仕組みの一つ。

・教育課程については、高等学校は、各教科に属する科目、総合的な探究の時間、特別活動によって編成。小学校及び中学校は、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動によって編成(小学校は他に外国語活動)。以上は「学校教育法施行規則」による。
・保育園及び幼稚園の、ねらい及び内容、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、については「保育所保育指針」及び「幼稚園教育要領」による。

事業着手

令和6年度に、長野県主催の「信州オープンドアスクール創造会議」が4回開催され、全ての会議に参加しました。

この中で、インクルーシブでフレキシブルな新たな学びの場を提供する必要があるという県の考えに共感するとともに、軽井沢町の抱える教育課題（不登校児童生徒への支援、中学校未就学者への支援、外国籍の方のニーズ等）の解決に向けて「学びを保障する新たな場を創っていくことが重要」との認識を深めました。

このため、「軽井沢オープンドアスクール（仮称）」事業として、長野県で初となる「新たな学びの場の設置」に向け、「学びの多様化学校」及び「夜間中学」の設置検討を行っていくことを決定しました。

アドバイザー

元高校教員で、長野県高等学校長会長をはじめとする役職を歴任され、最終的に長野県教育委員会教育長で退任された、内堀繁利氏を、令和6年10月1日付けで、「軽井沢町教育推進アドバイザー」に任命させていただきました。

新しい学びの場のデザインや、国・県等との円滑な協議等にご尽力いただきます。

町の現状について

●軽井沢町の不登校児童生徒数

	小学生	中学生	合計
令和5年度	52名	44名	96名
5年度全体児童生徒数	1,009名	451名	1,426名

●軽井沢町の未就学者

	未就学者	最終卒業学校が小学校の者
軽井沢町	34名	171名
長野県順位 (77市町村)	11位 (町村のみ1位)	23位 (町村のみ1位)

「出典（令和2年国勢調査より）」

●不登校児童生徒の教育支援センター利用状況

中間教室 (平成20年4月1日開設)	平成29年度		令和5年度		令和6年度	
	小学生	中学生	小学生	中学生	小学生	中学生
登録者数	0名	6名	10名	10名	11名	10名
利用者数	0名	6名	9名	8名	8名	5名

設置準備会議

今後設置する学校が、安全安心でワクワクする学びの場となるよう、令和9年度の開校を目指し、学識経験者、支援者、県関係者、町関係者、計19名の委員の皆様から、ご助言やご提言をいただきます。

【資料 7】

軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議等スケジュール（案）

年度	回数 内容	開催日（予定） 会場	主な協議内容	その他
令和6年度	第1回	令和7年 3月7日(金) 軽井沢町立図書館 多目的室	<ul style="list-style-type: none"> ・経過説明(国・県・町) ・今後のスケジュール ・スクールコンセプト(1) ・アンケート内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート作成 実施(5月中)、集計 ・ワークショップ実施(予定) ・国(文部科学省)へ 補助金申請(施設改築等)
令和7年度	第2回	令和7年 5月22日(木) 軽井沢中学校 多目的室	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールコンセプト(2) ・スクールデザイン(1)：ハード面 (スタッフ、教室、設備等) ・アンケート内容(報告) 	
	第3回	令和7年 7月下旬 会場：未定	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールデザイン(2)：ハード面 (スタッフ、教室、設備等) ・アンケート集計結果 	
	第4回	令和7年9月 会場：未定	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールデザイン(3)：ソフト面 (教育課程、学校方針) 	
	第5回	令和7年 10月中～下旬 会場：未定	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールデザイン(4)：ソフト面 (教育課程、学校方針) ・設置場所候補地(報告) ・学習空間デザイン 	
	第6回	令和7年12月～ 令和8年1月 会場：未定	<ul style="list-style-type: none"> ・学習空間デザイン(報告) ・生徒募集要項等(1) ・教育課程、学校方針(案) 	
	第7回	令和8年2月～ 3月 会場：未定	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒募集要項等(2) ・校名アイデア ・校章デザイン等 	
令和8年度	協議すべき事案がある場合に開催			<ul style="list-style-type: none"> ・国(文部科学省)へ 学びの多様な学校設置 認可申請予定 ・県(教育委員会)へ 夜間中学設置 認可申請予定 ・広報活動 ・設置条例 ・生徒募集 ・教育研修等
令和9年度				4月開校 (予定)

資料 8

令和 7 年（2025 年） 3 月 7 日

第 1 回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議 資料

軽井沢オープンドアスクール（仮称） スクールコンセプト（イメージ）

- ・学校に通えないなどの理由により、学校生活において様々な学びを十分に享受できていない学齢期の子どもたちや外国籍・外国由来の人たち、十分に享受できなかった学齢経過者が集い、教員や支援員など信頼できる大人とともに、それぞれのペースや空間で安心して学び、成長を実感できるインクルーシブでフレキシブルな学びの場を創造
- ・加えて既存の公立学校が子どもたちや保護者にとって、より魅力的な学びの場となるよう、設置するオープンドアスクールの理念や仕組み、学校文化や学校風土などの特長を積極的に導入

1 設置形態

- ・「学びの多様化学校」と「夜間中学」を併設した新たな学びの場
- ・軽井沢町立軽井沢中学校の分校として設置

2 対象生徒

- ・様々な事情で学校への登校が困難な生徒（不登校の子どもたち）
→ 軽井沢中学校在籍者（又は在籍予定者）を想定
- ・中学校形式卒業者や中学校未就学者（学齢経過者）
- ・日本の中学校にあたる教育を十分に受けていない外国籍又は外国由来の方
→ 今後検討

3 設置場所

- ・町内の既存公共施設（必要な範囲で改修等を行い使用）

4 学びの姿

- ・自分のペースで学ぶ
- ・自分らしさを大切にしながら学ぶ
- ・自分の決めた方法で学ぶ
- ・体験的に学ぶ
- ・自分に合った時間帯で学ぶ
- ・多様な人とまじりあって学ぶ
- ・自分の学びたいことを多く学ぶ
- ・探究的に学ぶ

5 生活の姿

- ・ありのままにいられる場所
- ・くつろいだり遊んだりできる場所
- ・必要なことは自分たちで話し合っ決定
- ・安心できる居場所
- ・十分に対話や雑談をする時間
- ・周囲に頼れる大人の存在

6 教職員

- ・展開される学びの姿や生活の姿を保障できる教員、ともに学び成長できる教員、管理的だったり上から目線ではない教員（教員研修の充実）
- ・教員に加えて S C（スクールカウンセラー）、S S W（スクールソーシャルワーカー）、特別支援教育支援員、S S（スクールサポーター）やボランティアなど

7 地域との連携

- 例
- ・体験的な学びや探究的な学び（軽井沢学）に関わる大人との交流
 - ・探究的な学びや部活動等課外活動に関わる高校生との交流

資料 9

令和 7 (2025 年) 3 月 7 日
第 1 回軽井沢オープンドアスクール (仮称) 設置準備会議 資料

軽井沢オープンドアスクール (仮称) (「学びの多様化学校」) 設置に向けたアンケート (案)

1 アンケート概要

(1) 調査期間

令和 7 年 5 月

(2) 調査対象

- ・児童生徒 小学校 4 年～中学校 3 年生
- ・保護者 小学校 1 年～中学校 3 年生

(3) 調査方法

- ・児童生徒は学校にて Google フォームにて回答
(回答していない児童生徒を把握したうえ、その児童生徒には教育支援センターやスクールサポーターが個別に対応)
- ・保護者は tetoru に URL を添付し Google フォームにて回答

2 アンケート内容

軽井沢町では、様々な理由で中学校を休みがちな生徒の皆さんや、学校にあまり行けないまま中学校を卒業した人、外国出身や外国由来で日本の中学校に相当する学校を卒業していない人などを対象にした新たな学びの場を設置したいと考えています。

この学びの場は正式な中学校ですが、学びを必要としている人が、それぞれのペースや空間で安心して学び、少人数で個別の学習が中心となる学校です。生徒の皆さんの状況に共感し、寄り添ってくれる先生や支援する皆さんと、さまざまな背景を持った生徒さんや大人の皆さんが共に集い、学び合う学校なので、まだ仮の名前ですがこの学校を「軽井沢オープンドアスクール」と呼んでいます。この中学校が多くの人にとって自分の成長を実感できる、誰にでも開かれた柔軟な学びの場となるようにしたいと思いますので、皆さんのご協力をお願いします。

そこで、以下の質問にお答えください。

児童・生徒用

注 1 小学生の皆さんは、「今の学校が中学校だったら」と思って回答してください。

注 2 学校を休みがちでない人も、新たにできる軽井沢オープンドアスクールがこんな学校だったら良いのになあ、とって回答してください。

(1) 回答するあなたについての質問です。

- ・あなたの学校を教えてください。
東部小学校、中部小学校、西部小学校、軽井沢中学校
- ・あなたの学年を教えてください。
4 年 5 年 6 年 中 1 中 2 中 3
- ・あなたの登校状況を教えてください。
「毎日」または「ほぼ毎日」登校
やや休みがち (毎月 2～3 日休む)
休みがち (毎週 1 日程度休む)
かなり休みがち (学校に行く日のほうが少ない)

ほとんど学校に行っていない

- ・あなたに困りごとや不安事がある時に相談できる人はいますか。
いる、いない
- ・「いる」と回答した人にお聞きします。相談できる人は誰ですか。
家族、友だち、担任の先生、保健室の先生、教頭先生、校長先生、担任以外の学校の先生、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールサポーター、外部の相談窓口、その他（具体的に記述）
- ・「いない」と回答した人にお聞きします。スクールカウンセラーやスクールサポーターなど、相談できる人がいることを知っていますか。
知っている、知らない。

(2) あなたの学校生活についての質問です。

①「学習」についての質問です。

- ・自分にとって「いい仕組み」とか「楽しい」と思うことは何ですか。
(例) 友だちとグループで話し合う、タブレットで調べる、好きな場所で考える
(自由記述)
- ・自分にとって「大変だなあ」とか「不安に思う」ことは何ですか。
(例) 授業の進むスピードが速い、苦手な科目がある、ずっと座っている、
(自由記述)

②「学習以外」についての質問です。

- ・自分にとって「いい仕組み」だとか「楽しい」と思うことは何ですか。
(例) 遠足や運動会など行事、友だちと遊べる、給食がある、
(自由記述)
- ・自分にとって「大変だなあ」とか「不安に思う」ことは何ですか。
(例) 友だち関係、先生との関係、宿題の量
(自由記述)

(3) 軽井沢オープンドアスクール（仮称）についての質問です。

- ・新しい学校にあったらいいなあと思う「仕組み等」を3つ以内で選んでください。
少人数での学習環境、自分で教科を選べる、学習場所を選べる、先生を選べる、いつでも先生に質問できる環境、必要に応じて先生以外がアドバイスしてくれる、自分のペースで学べる、自分の学びたい時間で学べる、わからない事をもう一度学べる。その他（自由記述）
- ・新しい学校にあったらいいなあと思う「設備等」を2つ以内で選んでください。
リラックスできる場所、自分ひとりでいられる場所、友だちと談話できる場所、大きい机、だれでも座っていい場所、バーチャル空間、その他（自由記述）
- ・新しい学校ができたなら、入学したいと思いますか。
思う、思わない
- ・「思う」と答えた皆さんに質問です。なぜ思うと答えたのですか。
理由（自由記述）
- ・「思わない」と答えた皆さんに質問です。なぜ思わないと答えたのですか。
理由（自由記述）

以上でアンケートは終了です。この結果を利用して今後グループワーク等、対面でお話を聞く機会を何らかの形で持ちたいと考えています。ご協力ありがとうございました。

保護者用

注1 保護者の方お一人のみお答えください。

注2 複数のお子さんがある場合には、そのうちのお一人定を想定してお答えください。

(1) お子様について伺います。

- ・学校を教えてください。

東部小学校、中部小学校、西部小学校、軽井沢中学校

- ・学年を教えてください。

4年 5年 6年 中1 中2 中3

- ・登校状況を教えてください。

「毎日」または「ほぼ毎日」登校

やや休みがち（毎月2～3日休む）

休みがち（毎週1日程度休む）

かなり休みがち（学校に行く日のほうが少ない）

ほとんど学校に行っていない

- ・保護者ご自身がお子様の件で困りごとや不安事がある時に相談できる人はいますか。

いる、いない

- ・「いる」と回答した人にお聞きします。相談できる人は誰ですか。（複数回答可）

家族、友人、担任の先生、保健室の先生、教頭先生、校長先生、学校の先生の誰か、

スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールサポーター、外部

の相談窓口、その他（具体的に記述）

- ・「いない」と回答した人にお聞きします。スクールカウンセラーやスクールサポーターなど、相談できる人がいることを知っていますか。

知っている、知らない、

(2) お子様の学校生活についての質問です。

①「学習」についての質問です。

- ・お子様にとって「いい仕組み」とか「楽しい」と思うことは何ですか。

(例) 友だちとグループで話し合う、タブレットで調べる、好きな場所で考える

(自由記述)

- ・お子様にとって「大変だなあ」とか「不安に思う」ことは何ですか。

(例) 授業の進むスピードが速い、苦手な科目がある、ずっと座っている、

(自由記述)

②「学習以外」についての質問です。

- ・お子様にとって「いい仕組み」だとか「楽しい」と思うことは何ですか。

(例) 遠足や運動会など行事、友だちと遊べる、給食がある、

(自由記述)

- ・お子様にとって「大変だなあ」とか「不安に思う」ことは何ですか。

(例) 友だち関係、先生との関係、宿題の量

(自由記述)

(3) 軽井沢オーブンドアスクール（仮称）についての質問です。

- ・新しい学校にあったらいいなあと思う「仕組み等」を3つ以内で選んでください。

少人数での学習環境、自分で教科を選べる、学習場所を選べる、先生を選べる、いつでも先生に質問できる環境、必要に応じて先生以外がアドバイスしてくれる、自分のペースで学べる、自分の学びたい時間で学べる、わからない事をもう一度学べる。その他（自由記述）

- ・新しい学校にあったらいいなあと思う「設備等」を2つ以内で選んでください。
リラックスできる場所、自分ひとりでいられる場所、友だちと談話できる場所、大きい机、だれでも座っていい場所、バーチャル空間、
その他（自由記述）
- ・新しい学校ができたなら、お子様を入学させたいと思いますか。
思う、思わない
- ・「思う」と答えた皆さんに質問です。なぜ思うと答えたのですか。
理由（自由記述）
- ・「思わない」と答えた皆さんに質問です。なぜ思わないと答えたのですか。
理由（自由記述）

以上でアンケートは終了です。この結果を利用して今後グループワーク等、対面でお話を聞く機会を何らかの形で持ちたいと考えています。ご協力ありがとうございました。

資料 10

令和7年(2025年)3月7日
第1回軽井沢オープンドアスクール(仮称)設置準備会議 資料

軽井沢オープンドアスクール(仮称)〔夜間中学〕設置に向けたアンケート(案)

1 アンケート概要

(1) 調査期間

令和7年5月～6月

(2) 調査対象

- ・特定の方を対象
→ 公立夜間中学のニーズがあると想定される方、及びこれらの方を日ごろ支援している方
- ・不特定多数対象
→ HP上にアンケートを掲載、関連施設に多言語のチラシを配布しQRコードでアンケート実施

(3) 調査方法

- ・Google フォームにて回答

2 アンケート内容

軽井沢町では、様々な理由で中学校を休みがちな生徒の皆さんや、学校にあまり行けないまま中学校を卒業した人、外国出身や外国由来で日本の中学校に相当する学校を卒業していない人などを対象にした新たな学びの場を設置したいと考えています。

この学びの場は正式な中学校ですが、学びを必要としている人が、それぞれのペースや空間で安心して学び、少人数で個別の学習が中心となる学校です。生徒の皆さんの状況に共感し、寄り添ってくれる先生や支援する皆さんと、さまざまな背景を持った生徒さんや大人の皆さんが共に集い、学び合う学校なので、まだ仮の名前ですがこの学校を「軽井沢オープンドアスクール」と呼んでいます。この中学校が多くの人にとって自分の成長を実感できる、誰にでも開かれた柔軟な学びの場となるようにしたいと思いますので、皆さんのご協力をお願いします。

下記のいずれかに該当する人は、以下のアンケートにお答えください、

- ・学校にあまり行けないまま中学校を卒業した
- ・何らかの理由で中学校には行けなかった
- ・外国出身や外国由来で日本の中学校に相当する学校を卒業していない

(1) 回答するあなたについての質問です。

- ・あなたの年齢を教えてください。以下から選んでください。
10代、20代、30代、40代、50代、60代、70代 他(具体的に)
- ・あなたの性別を教えてください。
男、女、他(具体的に)
- ・あなたの居住地を教えてください。市町村は○をしてください。

(具体的に) 市、町、村

- あなたの国籍を教えてください。

(具体的に) 国

- あなたは以下のどれに該当しますか。

学校にあまり行けないまま中学校を卒業した
何らかの理由で中学校には行けなかった
外国出身で日本の中学校に相当する学校を卒業していない
外国由来で日本の中学校に相当する学校を卒業していない
その他 (具体的に)

(2) 夜間中学についての質問です

- 夜間中学という制度を知っていますか。

知っている、知らない

- 軽井沢町に夜間中学ができれば、入学したいと思いますか。

入学したい、入学したくない、よくわからない

- 入学したい、と答えた人に質問です。なぜ入学したいのですか。

理由 (具体的に)

- 夜間中学に望むことは何ですか。下から選んでください。

昼間も通いたい、日本語を学びたい、自分のペースで学びたい、ゆっくり学びたい
その他 (具体的に)

- 入学したくない、と答えた人に質問です。なぜ入学したくないのですか。

(具体的に)

- あなたの身近な人で公立夜間中学を紹介したい人はいますか

いる、いない

- 「いる」と回答した方に聞きます。紹介したい人は以下のいずれに該当しますか。下から選んでください。

学校にあまり行けないまま中学校を卒業した
何らかの理由で中学校には行けなかった
外国出身で日本の中学校に相当する学校を卒業していない
外国由来で日本の中学校に相当する学校を卒業していない
その他 (具体的に)

この件に関して、その他に何らかのご意見、ご要望等がありましたら、何なりと軽井沢町教育委員会にご連絡ください。アンケートにご協力ありがとうございました。